

# 経営比較分析表

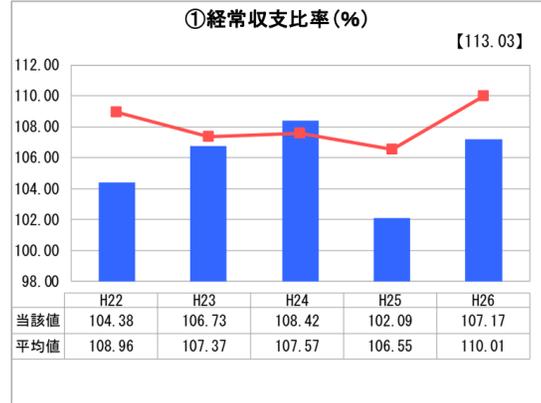
京都府 綾部市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A6
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	68.97	82.11	4,276

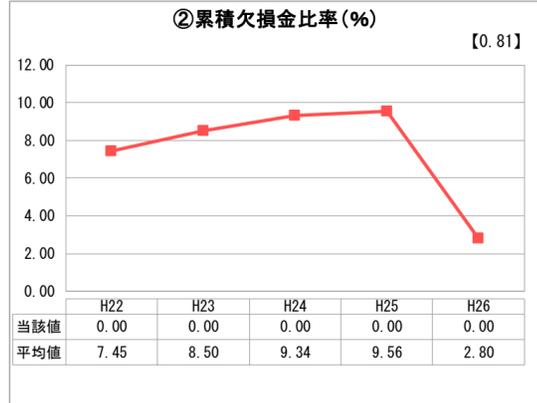
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
35,419	347.10	102.04
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
27,731	54.45	509.29

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成26年度全国平均

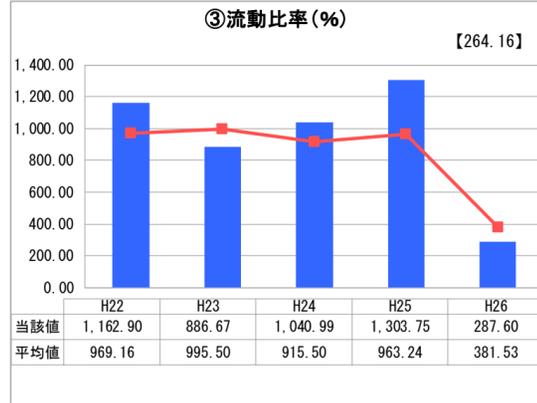
## 1. 経営の健全性・効率性



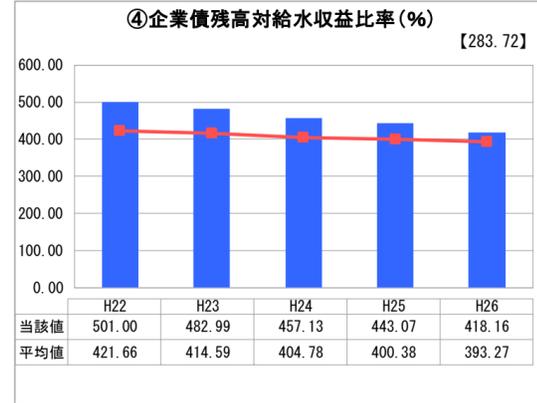
「経常損益」



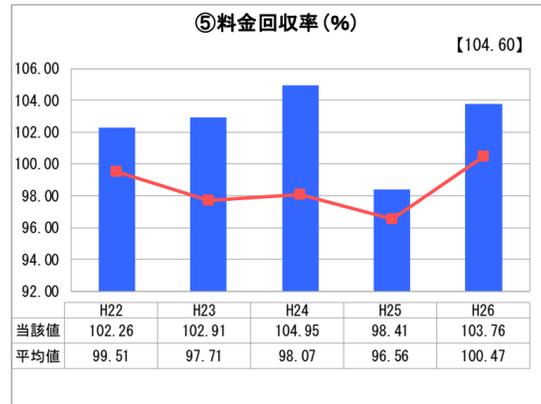
「累積欠損」



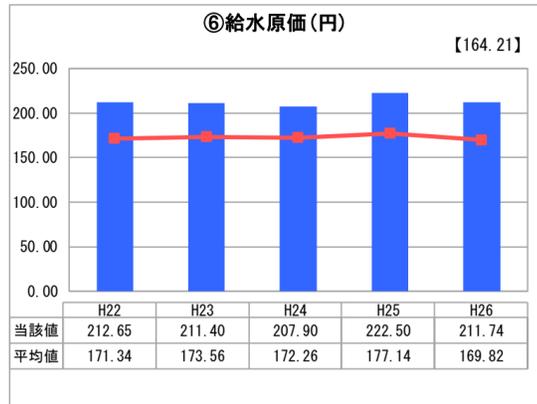
「支払能力」



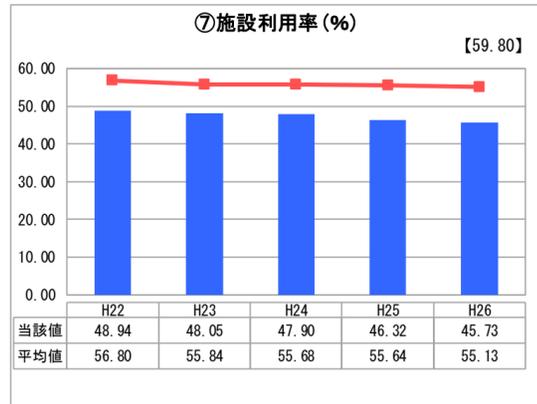
「債務残高」



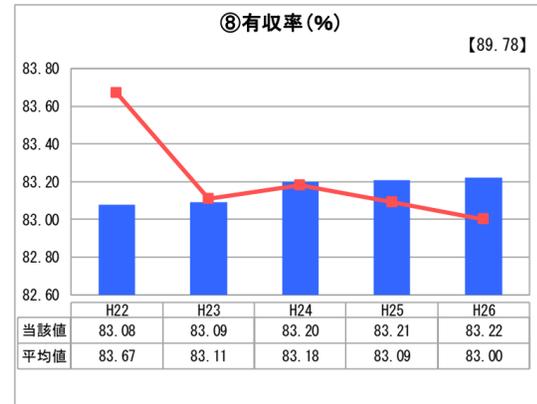
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

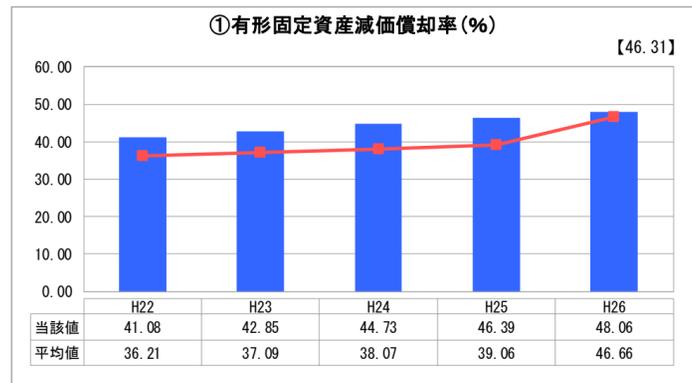


「施設の効率性」

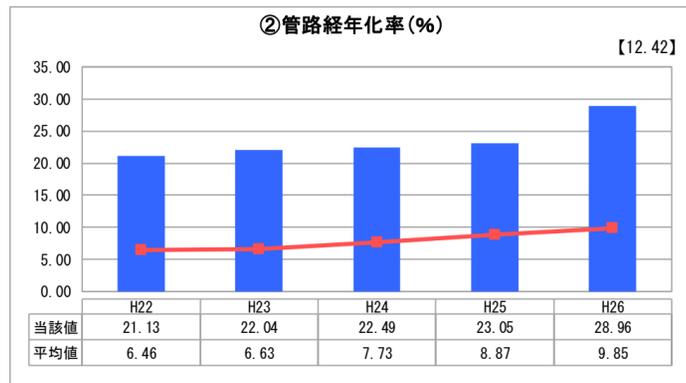


「供給した配水量の効率性」

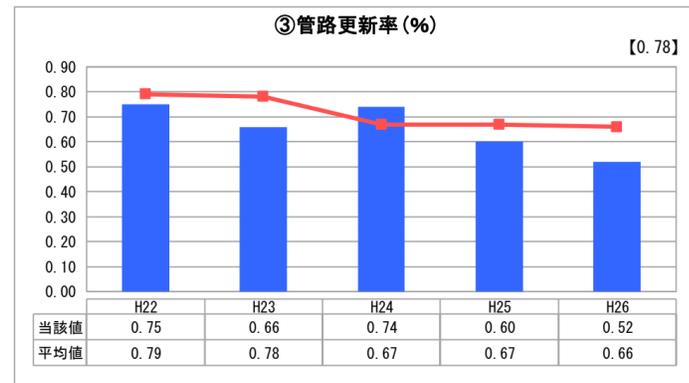
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は107.17%と100%を超えており、単年度収支は黒字です。しかし、給水収益が減少傾向にあり、引き続き事業の効率化、経費の削減に努めます。

② 近年、黒字経営を継続しており、累積欠損は発生していません。

③ 流動比率は287.60%で、前年度と比較して1,015.15ポイント減少していますが、流動資産が流動負債の2倍以上あり、問題はありません。

④ 企業債残高対給水収益比率は近年、企業債の発行を行っていないため減少傾向にありますが、給水収益も減少しているため、わずかな減少にとどまっています。

⑤ 料金回収率は103.76%であり、給水に係る費用は給水収益のみで賄っています。

⑥ 給水原価は、類似団体平均値と比較しても高くなっています。これは、給水面積が広く給水集落が点在しているため、設備投資、施設の維持管理等に経費がかかり、事業効率の悪いことが影響しています。

⑦ 施設の利用率は45.73%で、類似団体平均値と比較して低くなっていますが、地域の特性上、お盆又は年末年始など一時的に使用量が增大する時期があること、災害に対応できるように一定の余裕は必要と考えています。

⑧ 有収率は83.22%で類似団体平均値より高くなっています。漏水調査を行い計画的に老朽管の更新を行っています。新たな漏水が発生するため、83%台で推移しています。

### 2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率は、48.06%で類似団体平均値より高くなっています。

② 管路経年化率は、28.96%で類似団体平均値を大きく上回っています。

③ 管路更新率は0.52%と類似団体平均値を下回っています。漏水調査を実施、計画的に老朽管の更新を行っています。本市の管路延長が376kmあり、老朽管の更新が追い付かない状況です。

## 全体総括

経常収支は100%以上で累積欠損もなく、流動比率についても200%以上で概ね健全経営を維持することができています。しかし、今後は、老朽化する施設の整備や維持管理経費等の増加が見込まれ、平成29年度からは簡易水道の上水道事業への統合が予定されており、財政状況がつかない厳しいものになることが予想されます。綾部市水道事業ビジョンを基本に、更なる経営の健全化を目指し、今後も事業の効率化、経費削減等に努めます。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。